

平成21年度第3四半期(10~12月)見通し

<工務店・販売店での需要予測>

平成21年度第3四半期(10~12月)の需要予測が出揃った。前回の需要予測(7~9月)に比して工務店段階で8.5ポイントの回復傾向が示された。これは今期第1四半期(4~6月)の需要予測マイナス7.7ポイントの最悪時に比べると13.4ポイントもの回復になり、秋需に向けての仕事量に期待の出来る傾向が表れたと言える。また販売店段階での見通しも同じ様に7~9月に比して7.7ポイントの増加、4~6月に比しては12.4ポイントも増加しており、工務店の10月以降の仕事量が回復傾向にある事を予測している。

地域別に見ると、工務店・販売店共、関東・近畿・九州での回復予測が出ており、特に市場の大きい関東圏での工務店段階の1.5ポイントの回復(平成21年度7~9月比)は、今後の新設着工数、あるいはリフォームの仕事量を睨む上でも見逃せない部分と言える。

<主要メーカーによる販売予測>

特に合板メーカーによる販売予測は、増加が20.2%、前年並との回答も20.2%と前回よりもかなりの改善が予測される。但し、住設メーカーは前回の7~9月時とほぼ変化のない回答が出ており、意外と厳しい予測と言える。

合板	：	増加予測	20.2%	前年並予測	20.2%	減少予測	59.6%
木質建材	：	増加予測	8.3%	前年並予測	9.4%	減少予測	82.3%
窯業・断熱	：	増加予測	9.3%	前年並予測	23.9%	減少予測	66.8%
住設機器	：	増加予測	0%	前年並予測	16.2%	減少予測	83.8%

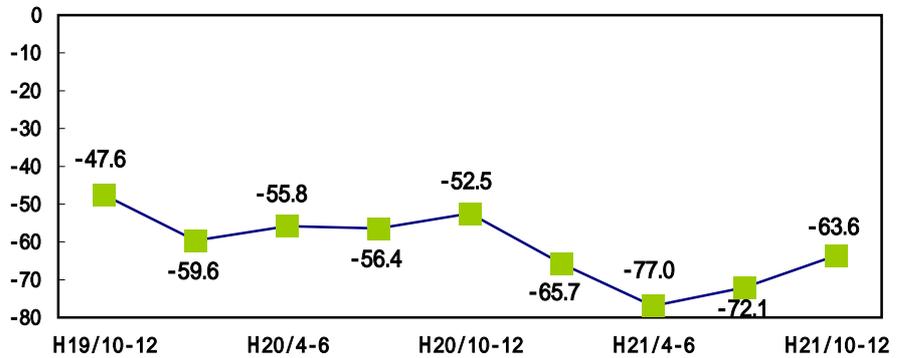
<合板の現状と今後について>

今回初めて合板に関するアンケートを実施した。住宅における今後の合板使用量は、増加よりも減少回答が多く、合板の使用に最も重視する点は、品質よりも価格の方が上回り、現時点では価格重視が一番で安定供給はさほど重視しておらず、合板は当用買いで、欲しい時に欲しいだけの量が安く手に入れば、との考えが販売店には強い感がある。但し、外壁下地の耐力面材としての取り扱いが圧倒的に合板が支持されており、売れ筋アイテムとしては、合板の期待度は高いと言える。

景気動向の推移

過去2年間の仕事量の見通しをポイントで表したグラフ。

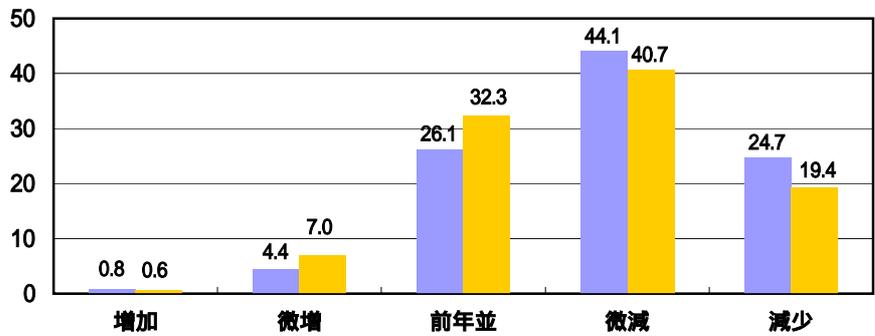
ポイント



地域別需要予測

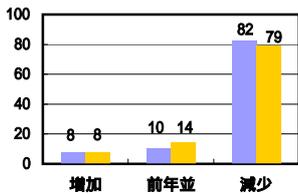
全国 回答数 2,851

「増加」「微増」「前年並」「微減」「減少」の中からお選び頂き、総回答数よりそれぞれの割合を算出致しました。単位は、「%」となります。

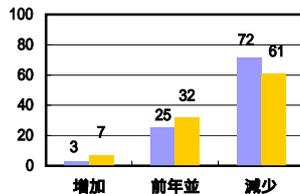


■ 平成21年度 第3四半期
■ 平成20年度 第3四半期

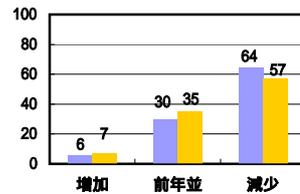
北海道



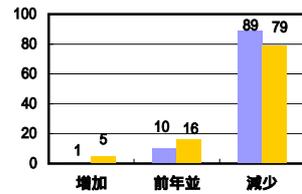
東北



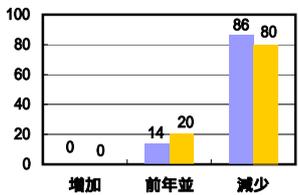
関東



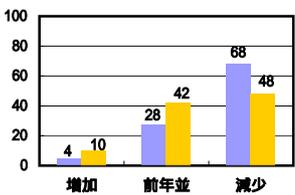
甲信越



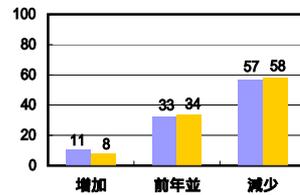
北陸



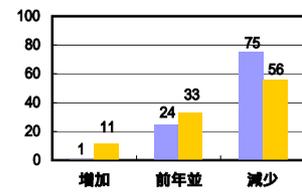
中部



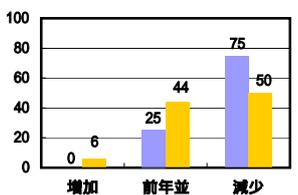
近畿



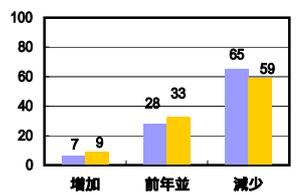
中国



四国



九州



<有効回答数>

北海道	169	中国	176
東北	279	四国	71
関東	1,009	九州	340
甲信越	191		
北陸	59		
中部	206		
近畿	351		

販売店

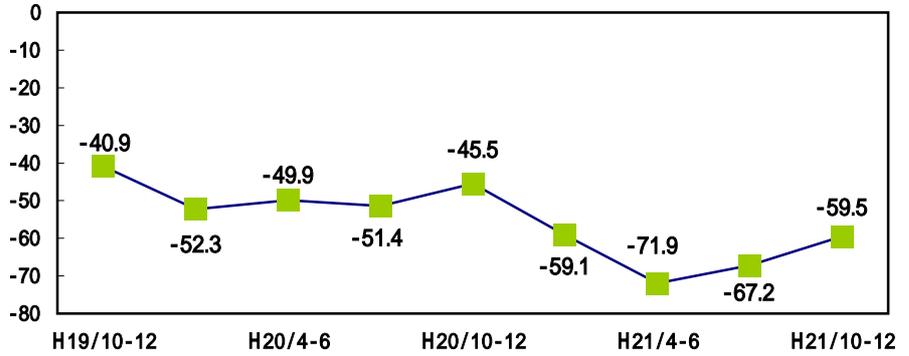
需要予測(10月~12月)

JK情報センター

景気動向の推移

過去2年間の仕事量の見通しをポイントで表したグラフ。

ポイント

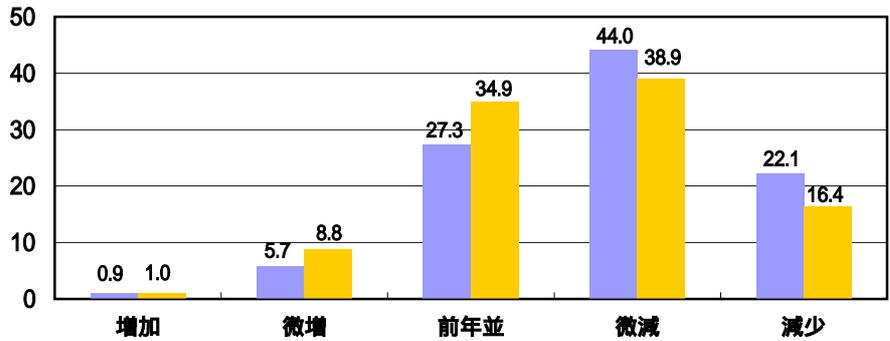


地域別需要予測

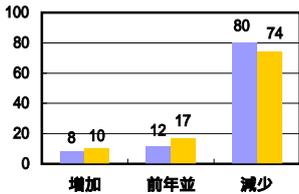
全国 回答数 2,863

「増加」「微増」「前年並」「微減」「減少」の中からお選び頂き、総回答数よりそれぞれの割合を算出致しました。単位は、「%」となります。

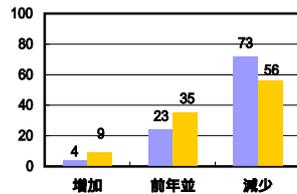
■ 平成21年度 第3四半期
■ 平成20年度 第3四半期



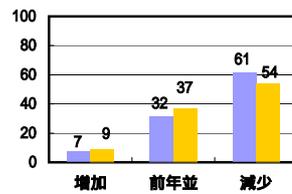
北海道



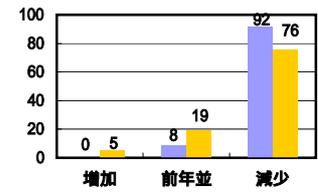
東北



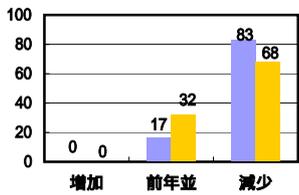
関東



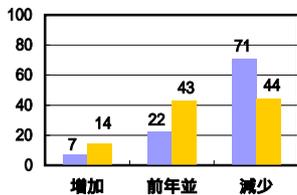
甲信越



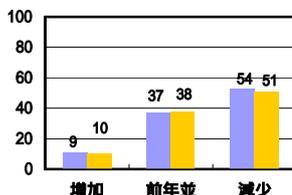
北陸



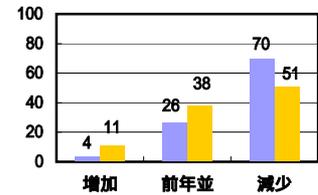
中部



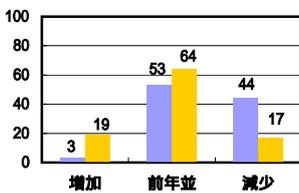
近畿



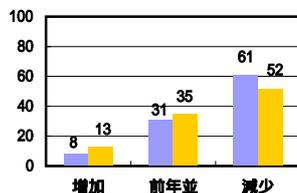
中国



四国



九州



<有効回答数>

北海道	169	中国	178
東北	282	四国	71
関東	1,012	九州	341
甲信越	191		
北陸	60		
中部	206		
近畿	353		